新潟大学　人を対象とする研究等倫理審査委員会　オプトアウト書式

①研究課題名	神経変性疾患における翻訳品質管理 RQC の機能解析
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者：2001 年 4 月 1 日以降、新潟大学脳研究所病理学分野で病理診断された患者さんの中で、ご遺族が組織を研究や教育のために利用することに文書で同意されている患者さんが対象です。臨床病理学的に診断が確定している、神経疾患を持たない患者さんと筋萎縮性側索硬化症と診断されている患者さんが対象です。性別、年齢をできるだけ合わせてそれぞれ 10 例、合計 20 例を対象といたします。	
③概要	
東京大学医科学研究所 RNA 制御学分野との共同研究です。正確な遺伝子発現は生命現象の根幹であり、その破綻や異常は様々な疾患の原因となります。細胞には RNA やタンパク質の品質管理機構があり、細胞の恒常性維持するために重要な機能を果たしています。最近、筋萎縮性側索硬化症における細胞の品質管理機構の活性低下が報告され、細胞の品質管理機構の破綻は筋萎縮性側索硬化症を含む神経変性疾患に広く関連する可能性が示唆されています。本研究では、病理解剖で採取された死後脳サンプルを用いて筋萎縮性側索硬化症における細胞の品質管理機構障害の解明を進めます。具体的には、細胞の品質管理機構に関連する分子の発現や局在を解析します。この共同研究により筋萎縮性側索硬化症やその他の神経変性疾患発症メカニズムの理解に貢献できると考えています。	
④申請番号	2022-0052
⑤研究の目的・意義	東京大学医科学研究所 RNA 制御学分野との共同研究です。正確な遺伝子発現は生命現象の根幹であり、その破綻や異常は様々な疾患の原因となります。細胞の保持する品質管理機構は、様々な細胞内外の要因による遺伝子発現の異常を解消し、恒常性維持する重要な機能を果たしています。本研究の目的は、筋萎縮性側索硬化症における、細胞の品質管理機構の障害機序を明らかにすることです。本研究では、病理解剖で採取された死後脳サンプルを用いて筋萎縮性側索硬化症における細胞の品質管理機構障害機序の解明を進めます。具体的には、細胞の品質管理機構に関連する分子の発現や局在を解析します。この共同研究により筋萎縮性側索硬化症やその他の神経変性疾患の発症メカニズムの理解に貢献できると考えています。
⑥研究期間	倫理委員会承認日～2026 年 3 月 31 日
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	東京大学医科学研究所 RNA 制御学分野に、新潟大学脳研究所病理学分野において、病理解剖にて採取した死後脳組織、及び付随する情報(脳組織所見、症例番号、年齢、性別、臨床診断、罹病期間、治療経過、処方歴)を提供します。剖検脳組織を用いて、組織学的･生化学的

	手法で細胞の品質管理機構に関連する分子の発現や局在の解析を行います。
⑧利用または提供する情報の項目	死後脳組織、および、それに付随する臨床情報（脳組織所見、症例番号、年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報（診断、発病期間、治療経過、処方歴）。個人を特定する情報は含みません。
⑨利用の範囲	新潟大学脳研究所病理学分野及び東京大学医科学研究所RNA制御学分野
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 **東京大学医科学研究所RNA制御学分野　稲田利文**
⑪お問い合わせ先	新潟大学脳研究所病理学分野 柿田明美 電話:025-227-0633 FAX: 025-227-0817 e-mail: kakita@bri.niigata-u.ac.jp